社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和07年11月27日

計画の名称	大谷地区　都市再生整備計画													
計画の期間	令和０６年度　～　令和０６年度　(1年間)											重点配分対象の該当		
交付対象	宇都宮市													
計画の目標	大目標：ネットワーク型コンパクトシティにおける魅力ある観光拠点の形成 目標１：歴史文化資源をはじめとする地域資源の地域振興等での活用の推進 目標２：歴史文化資源をはじめとする地域資源の保存活用の多様な主体の参画促進 目標３：歴史文化資源をはじめとする地域資源の魅力発信の強化													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	592	A	592	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）		0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		平成２９	令和２	令和６
1	大谷町における年間入込客数を70万人から80万人に増加			
	大谷町の年間観光者数を把握する	70万人	75万人	80万人
2	大谷町における観光産業立地数を7事業所から10事業所に増加			
	大谷町の観光産業の立地数を把握する	7事業所	8事業所	10事業所
3	大谷町地内での公共交通（バス）の乗降者数を101,000人から120,000人に増加			
	公共交通事業者より大谷地内のバス停の乗降者数を把握する	101000人	110500人	120000人

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

案件番号：　0000698634

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） R06	R07	R08	R09	R10	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	宇都宮市	直接	宇都宮市	－	－	大谷地区　都市再生整備計画事業	道路，公園，河川，地域生活基盤施設等	宇都宮市	■					592		－
											小計						592		
											合計						592		

案件番号：　0000698634

事　後　評　価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
庁内の横断的な組織（事後評価検討チーム）にて評価を実施	令和６年１２月実施
	公表の方法
	宇都宮市のホームページで公開する

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・年間の観光客の入込客数においては，コロナ禍の影響により，令和元年度から令和2年度にかけて，76万人から39万人まで落ち込んだことから，目標値を達成できなかったが，ハード・ソフト両面からのアクセス性・周遊性の向上や賑わい・憩いの場の創出などにより，令和5年度にはコロナ禍前の令和元年度の99%まで戻ったことから，今後も継続した伸び率が見込める。 ・観光産業の立地数においては，目標値の10事業所を上回り，地域外からのアクセス性や地域内での周遊性の向上に加え，事業化支援補助などにより，飲食・物販店などの出店意欲が高まったことから事業所が増加した。 ・バスの利用者数については，コロナ禍の影響により，令和元年度から令和2年度にかけて，バスの利用者数が約10.5万人から約5万人まで落ち込んだことから，目標値を達成できなかったが，観光拠点である観光交流センターを整備し，バスを安心して利用しやすい環境が整ったことや，バスと2次・3次交通がつながり，地区内の周遊性が高まったことにより，令和5年度にはバスの利用者数がコロナ禍前の令和元年度の104%まで戻ったことから，今後も継続した伸び率が見込める。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	・大谷観光の主要な動線である市道６３２・６３５号線及び大谷観光の発着・回遊の拠点となる観光交流センターの整備により，観光のメインルートにふさわしいインフラの強化によって，アクセス機能，地域の回遊性など，魅力ある観光拠点の形成に向けた様々な機能向上に繋がっている。 ・沿川のうちの浸水被害の軽減を目的とした鎧川改修事業の着手により，農業環境の保全が図られることから，農業の活性化による地域振興等における地域資源の活用推進に繋がっている。 ・大谷公園及び観光交流センターの整備による賑わい・憩いの空間の創出とともに，グリーンスローモビリティ等の２次交通の導入による観光施設間の周遊促進などの結果，多くの来訪者が訪れたことで，幅広い媒体での，歴史文化資源をはじめとする地域資源の魅力発信に繋がっている。 ・魅力ある観光拠点の形成に向けて，地域資源を生かした特色ある景観を保全・創出するため，景観形成重点地区等の地区指定を行い，地域資源（大谷石）の活用や，良好な周辺景観に配慮した建築物等の整備の促進などを実施したことにより，地域の魅力向上に繋がっている。

○特記事項（今後の方針等）

・観光交流センター（愛称：大谷コネクト）や大谷公園・大谷景観公園等の継続的な利活用を促進する必要があることから，多種多様なイベントの開催等で利用しやすい環境づくりに取り組んでいく。
・域外からのアクセス性や周遊性・滞在性のさらなる向上を図る必要があることから，県などの関係機関と連携を図りながら，道路整備や２次交通社会実験の実施など，ハード・ソフトの両面からの整備・検討により，引き続き交通環境の向上に取り組んでいく。
・来訪者による，幅広い媒体での歴史文化資源をはじめとする地域資源の魅力発信を強化する必要があることから，大谷地域周辺に位置する「道の駅ろまんちっく村」や「森林公園」などを含めた，各観光スポット間の移動手段の充実により，周遊性を高め，本市北西部エリアが一体となった観光拠点化に取り組んでいく。
・地域資源の活用において，多様な主体による参画をさらに推進する必要があることから，地域の関係団体による定期的な協議・意見交換や地域主催イベントの開催などを伴走支援することにより，地域が主体となった持続可能な観光まちづくりを推進していく。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	観光客の年間入込客数		
	最　終 目標値	80万人	コロナ禍の影響により，令和元年度から令和2年度にかけて，76万人から39万人まで落ち込んだことから，目標値を達成できなかったが，ハード・ソフト両面からのアクセス性・周遊性の向上や賑わい・憩いの場の創出などにより，令和5年度にはコロナ禍前の令和元年度の99%まで戻ったことから，今後も継続した伸び率が見込める。
	最　終 実績値	75万人	
2	観光産業の立地数		
	最　終 目標値	10事業所	地域外からのアクセス性や地域内での周遊性の向上に加え，事業化支援補助などにより，飲食・物販店などの出店意欲が高まったことから事業所が増加した。
	最　終 実績値	13事業所	
3	公共交通の利用者数		
	最　終 目標値	120000人	コロナ禍の影響により，令和元年度から令和2年度にかけて，バスの利用者数が約10.5万人から約5万人まで落ち込んだことから，目標値を達成できなかったが，観光拠点である観光交流センターを整備し，バスを安心して利用しやすい環境が整ったことや，バスと2次・3次交通がつながり，地区内の周遊性が高まったことにより，令和5年度にはバスの利用者数がコロナ禍前の令和元年度の104%まで戻ったことから，今後も継続した伸び率が見込める。
	最　終 実績値	109000人	